

## 令和2年度 第1回学校運営協議会記録

1. 日 時 令和2年7月31日(金) 13時30分～15時30分
2. 場 所 本校校長室
3. 出席者 学校協議会委員(出席6名)
- |             |       |
|-------------|-------|
| 大阪学院大学講師    | 寺脇 久人 |
| 学校歯科医       | 戸堂 耕造 |
| 高石市立高石中学校校長 | 南 良博  |
| 高石市第1区自治会会長 | 中谷 正彦 |
| 本校同窓会会長     | 山口 裕通 |
| 本校PTA会長     | 川上 加代 |
4. 議 題 協議に先立って、  
「学校経営計画」、  
「新型コロナウイルス感染症による休校時の対応」、  
「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けての対応」、  
「今春の進路状況」、  
「生徒状況」、  
「生徒会活動」、  
「国際交流・広報活動」、  
「PTA活動」、  
「教科書採択」  
等の報告を行いました。
4. 協議概要 以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。
- (学校経営計画に関連して)
- 中高連携を進めるということだが、具体的にはどのようなものか。  
  
→今年度については各学校のスケジュールが確定してから、実施できる形態を検討しながら進めることになる。中学校からの依頼があれば、出前授業を行うというようなことが考えられる。
  - 出前授業は、高校の教員が行うのか。  
  
→本校教員が中学校に出向いて出前授業を行う。その他、本校在校生が、自分の出身中学校に出向いて高校についての話をした

り、中学校教員が本校に来て授業を見学するということも想定している。

(進路状況について)

- 今年3月時点で把握している浪人生は何人くらいか。男子・女子ではどちらが多いのか。

→16名。例年と変わらない数値。大学合格者は延べ人数での集計となる。男子生徒が多い傾向。

- 医療系の進学を希望したが、うまくいかなかった生徒はどうするのか。

→医療系の大学進学希望者は通常、浪人することが多い。その他、3月時点で公務員受験のための専門学校などに進路変更した生徒もいる。

→歯科衛生士の専門学校への進学者も多い。時代の流れもある。

- 歯科衛生士の求人はどのような傾向なのか。

→求人倍率は17~20倍。医療系の進路指導において、医療看護系にシフトを置きすぎる傾向があるかもしれない。

- 今年の新型コロナウイルスの影響で来春の就職が難しくなるのではないか。

→業種によると考えている。全体としては厳しい傾向であるが、業種によっては例年どおりの採用を維持するところもある。

- 公務員など堅実な進路に進む傾向があるか。

→毎年、公務員に進む生徒はいるが、ここ2~3年、公務員への進路は厳しい状況にある。

(生徒状況について)

- 以前の高石高校を良く知っているが、その頃と比べても、生活指導の立ち番や校外指導はしっかりしている。生徒指導案件1件のみというのも、ずいぶん落ち着いてきたという印象。そんな中、新型コロナの影響で、オンライン授業への対応など大変な時代になってきた。心の病等で登校できない生徒はいないのか。1年生は、中学卒業後から長く高校に登校できなかった

が、スムーズに登校できるようになっているのか。

→学校再開当初は1年に限らず、新型コロナが怖くて学校に来ることができない生徒はいた。また、様々な家族構成下、保護者が学校に行かせたくないという家庭もあった。今は落ち着いている。

- 新型コロナが怖くて学校に行けないという生徒がいた場合、どのような対応を取るのか。

→教育相談が窓口になって相談に乗る体制を取っている。生徒あるいは保護者にスクールカウンセラーを紹介し、連携して対応する場合も多い。6月から1クラスを20名ずつに分けての分散登校がスタートした。6月15日に入学式を行い、現時点では特に問題となる生徒は出ていない。良いスタートがきれている。今後、家庭の変化等で登校しにくい生徒が出てくる可能性もある。夏休み明けには注視する必要がある。

- 教育相談での手厚い指導や生活指導においては、引き続き対応をよろしく願いたい。

- 懲戒の件数の減少自体は良いことではあるが、若者の社会的活動性を考えると、懲戒が0というのは必ずしも良いこととは思えない。遅刻する傾向のある者が創造性に優れるということもある。Steve Jobsは他人の意見を取り入れ、良いものを作った。それはある意味カンニングの一種とも言えるが、合法的なカンニングは社会に出ると推奨される。紙に向かってテストを受けるだけというのは憂慮すべき。もう少し元気さがあってほしい。枠にはまらない人を大切にする視点も大切にしてほしい。

→本校は普通科であるため、専門的な教育をする場面は作りに

くいが、リスク管理の視点からしっかりと対応していきたい。

- 学校経営計画にもあった危機管理の視点は良い。感染症の社会学の視点をもっと持ってほしい。確率、期待値など数字で比較する能力を育ててほしい。災害が起こりうる確率、起こった時に人が受ける影響等を考慮して優先順位を考え、不安を煽るだけにしないでほしい。

(生徒会活動について)

- 新型コロナが落ち着いたら、生徒会が中心となって、また地域の清掃をお願いしたい。

→是非、実施させていただきたい。

(PTA 活動について)

→PTA 活動についても、現状でできる企画を準備して、実施できるタイミングで実施したいと考えている。

(その他)

- 新型コロナで経済的な打撃を受けている家庭はあるか。

→ある。様々な経済的支援の措置があり、活用していただいている。

- オンライン授業への対応はどのようになっているか。

→学校臨時休校中、本校では、本校教員が学習の解説動画を自身で撮影し、インターネット上にアップしていた。オンライン授業に向けての府立高校の設備面での体制は整いつつある。しかし、受け手の家庭の側に通信回線の脆弱さ、通信費用、双方向で結ぶとなると、家庭内の背景の映像が写り込むといったプライバシーの問題も生じる。ひとつひとつ課題に対応しながら進めていく必要がある。

- スマートフォンとパソコンでは、視聴スタイルが随分異なると思うが。

→高校生においては、スマートフォン普及率は高いが、パソコン保有率は低い。しかし、スマートフォンに表示させると文字が小さくなるなど、視聴環境は良いとはいいがたい。このような状況はどの学校でも同じ。スマートフォンでも対応できる課題の提示のしかたを工夫していく。

- 同時刻に一斉に視聴するとなると、回線が混雑する。双方向で同時刻に視聴というのは問題があるのではないか。双方向で同時刻に配信というのではなく、好きな時間に視聴できるスタイル

にしてもらえるとありがたい。

- 大学生の子どもがおり、この度の新型コロナによる休校で、オンライン授業に対応することになったが、家庭の側も体制を整えるのは本当にたいへん。なかなかうまくいかず、試行錯誤を繰り返した。慣れるのにも時間がかかり、プリンタで出力できなかったり、動画がフリーズしたりというトラブルも頻発した。タブレットやパソコンの操作になれていない生徒・保護者もいる。あまり急激な導入ではなく、ゆっくりと対応するのが良いのではないか。

→現在、Google の提供する G Suite for Education という学習支援ツールを活用して、オンラインでの学習支援体制を構築することが決まっている。スマートフォンでも利用できるもので、今後、順次活用できる体制を整えていく予定である。